



イギリス・ケンブリッジ市でフェアトレードを盛り上げてきた市民と話す

学部長特別研究成果報告書 配分研究費：759千円（平成27年度）

浜松におけるフェアトレード・シティ運動の可能性調査

目的・概要

浜松市におけるフェアトレード・シティ認定の可能性、認定後の効果についてイギリスと国内の事例調査をし、浜松市の消費者教育推進法に基づく諸活動、また関係する市民活動団体に資する提言を行う。

以下の3つ柱で調査活動を行う。

- (1) イギリスと日本のフェアトレード・タウンの優良事例の訪問調査。
- (2) イギリスのフェアトレード大学の優良事例の訪問調査。
- (3) 浜松市がフェアトレード・タウンの認定を受ける条件を満たしているのか、店舗、市長、市議員らへの聞き取り調査。

期間

平成27年4月1日～平成28年3月31日

研究担当者

文化政策学部 国際文化学科 教授 下澤 嶽

スケジュール

平成28年6月～9月

浜松市内のフェアトレード商品を販売している商店、会社の洗い出し。

平成27年9月

イギリスのケンブリッジ、バーミンガムのフェアトレードタウン、フェアトレード大学を見学。

平成27年10月

浜松市民と一緒に、フェアトレードタウンはままつネットワークを立ち上げる。

またネパールのフェアトレード団体の関係者の講演会を開催する。

平成27年11月

フェアトレードタウン先進地区の熊本市を訪問。関係者のインタビュー。

平成28年2月

はままつフェアトレードマップの作成と配布、また2月27日、28日に、ハロー！

はままつフェアトレードDAY2016というイベントをイオン志都呂店で開催。

研究成果

研究成果として以下の点が挙げられる。

- (1) 浜松市内の107の販売店がフェアトレード商品を扱っていることを洗い出し、浜松市と共同で2万枚のフェアトレードマップとして配布できたこと。
- (2) イギリス、熊本市のフェアトレードタウン先進地区で、どのように運動が形成されてきたかを知ることができたこと。
- (3) はままつフェアトレード・ネットワークという市民やショップ経営者のグループが生まれ、フェアトレード・タウンをめざす運動の芽が生まれたこと。
- (4) 地元大型流通店イオンとの提携が生まれ、広く浜松市民の人にフェアトレードを訴える場をつくることができたこと。
- (5) SUAC運営懇談会が「フェアトレード大学」として認定を受けることを承認したこと。
- (6) マスメディアを通じて、研究活動が何度か知らされたこと。
- (7) 静岡県の消費者教育サイトで2本の原稿を提供したこと。

今後の研究成果の還元方法

28年度は以下のような場づくりをしていく予定である。

- (1) これらの成果をシンポジウムの形でその意義を12月に広く訴える予定。
- (2) はままつフェアトレード・ネットワークの活動もさらに活性化にむけて調整しフェアトレードタウン運動を活性化していく。
- (3) イオンとの連携を続け、第2回はままつフェアトレードDAYを開催する予定。
- (4) はままつフェアトレードマップの配布。
- (5) SUAC生協で、フェアトレード商品を販売していく予定。（6月から）



熊本市のフェアトレードショップ



ハロー！はままつフェアトレードDAY2016